

子どもたちの頑張りが輝いた一日

校長 田邊 道行

先週14日に、音楽フェスティバルを無事に開催することができました。当日は、多くの皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。保護者や地域の皆様から寄せられた温かな言葉の一つ一つが、子どもたちや教職員にとって大きな励ましとなっております。

いただいたご感想の中には、次のようなものがありました。

「どの学年の発表にも、その年齢ならではの魅力があふれ、心を動かされました。かわいらしい表現に笑顔になったり、美しい合唱に胸が熱くなったり、迫力ある合奏に圧倒されたりと、たくさんの感情が湧き上がる時間でした。子どもたちが力を合わせて一つの舞台をつくり上げる姿に、深く感動しました。」

こうした感想をいただけたことにより、子どもたちの努力の實りを改めて実感します。

また、教員への感謝のお声も寄せられました。

「想像以上に素晴らしい発表に驚きました。春日小学校の先生方の指導力と連携の力に感心し、地域の一員として安心感と信頼を覚えました。今日の運営の背後には、丁寧な計画と準備があったことと存じます。」

こうしたお声は、日々の教育活動に携わる職員にとって、何よりの励みとなります。

行事に向けて力を合わせる経験は、学年や学校全体に一体感を生み、子どもたちの成長を支える大切な機会です。これからも教育目標「よりよいかかわる」を目指して、子どもたちが仲間と共に学び合い、力を伸ばしていけるよう取り組んでまいります。

心の中にある“見えないつぼ”を育てて

さて、以前の全校集会で、子どもたちに頑張ることにつながる「二つのつぼ」の話をしました。

一つめは「努力のつぼ」です。

「できるようになりたい」と思って頑張るとき、心の中に「努力のつぼ」ができます。努力とは「続けてがんばる姿」のことです。練習を重ねるたびにつぼに努力がたまり、いつかいっぱいになってあふれるとき、それが「できなかったことができるようになるとき」です。ただし、このつぼは人によって大きさも形も違います。挑戦する内容によって変わることもあります。

算数の計算や鉄棒の逆上がりでも同じです。少しの努力でつぼが満たされる人もいれば、大きなつぼを持って、たくさんの練習が必要な人もいます。「友達はすぐにできたのに自分はまだできない」「こんなに頑張っているのに結果が出ない」と感じることもあるかもしれません。それは、あなたの努力のつぼの大きさが違うだけなのかもしれません。つぼがどれくらいで満たされるかは誰にも分かりません。だからこそ、あきらめずに続けることが大切です。あと一回、あと一日でできるようになるかもしれません。

大谷翔平選手、大の里関、三笥薫選手など、多くのアスリートも、小さな努力を積み重ねて自分のつぼを満たしてきました。努力は必ずつぼにたまっていきます。いつかあふれるときを信じて、目標に向かって挑戦し続けてほしいと思います。

どりよく
努力のつぼ



しんぼう
辛抱のつぼ



二つめは「辛抱のつぼ」です。

辛抱とは「つらいことや嫌なことを心の中でこらえてがんばること」です。楽しいことが多い一方で、悲しい出来事や、がまんしなければならない場面に出会うこともあります。そうしたときに、気持ちを抱えながらも前に進むもうとする姿が辛抱です。

辛抱のつぼも、人によって大きさや形が異なります。大きなつぼを持っている人は、少し嫌なことがあっても落ち着いて対処できますが、小さなつぼの人は怒ったり泣いたりしてしまうことがあります。とても大きな悲しみに出会ったときには、涙を流すことも必要です。涙はつぼの中の辛抱を減らし、あふれないようにしてくれます。

そして、このつぼも人からは見えません。もしかすると、辛抱のつぼがあふれそうな友達が近くにいるかもしれません。「これくらい大丈夫」と思った言葉でも、相手にとっては深い傷になることがあります。だからこそ、互いに優しい言葉をかけ合うことが大切です。

努力のつぼと辛抱のつぼ。

二つのつぼを少しずつ満たしながら、毎日の生活の中で自分を育ててほしいと願っています。努力を重ね、つらいことを乗り越えながら、大きなつぼを育てていきましょう。

このように話した次の全校集会では、今年、ノーベル賞を受賞した坂口志文さんと北川進さんの功績を紹介しました。小学生にとっては難しかったかもしれませんが、その後、受賞された2人が「次の時代の皆さんへ」として挙げた言葉について話しました。

坂口さんが挙げたのは、「一つ一つ」という言葉です。日々の研究や勉強・仕事に対する心構えとして、目の前の課題に一つずつ丁寧に向き合って努力を積み重ねていくことの大切さを示しています。

北川さんが挙げたのは「幸運は準備された心に宿る」という言葉です。成功や幸運は、日頃の準備や努力があってこそ訪れるということを言っています。

2人の研究成果は、国際的に認められず苦労や失敗が続いたときがありました。それでも、あきらめることなく、自分の研究にこだわり続けて、粘り強く努力と挑戦を続けた結果、世界の人を助けることにつながったのです。

「一つ一つ」の努力の積み重ねや、日頃の「準備」を大切にしていきましょう。





たいよう 学年（1年生）



9月25日に、2頭の元気な子ヤギが1年生に仲間入りしました。真っ白で、フワフワ、モチモチとしている様子から、「みるく」と「もっち」と名付けました。雨の日も風の日も、毎日お世話に進んで取り組んでいます。飼育活動を通して、たくさんの人や物とかかわりながら、命の大切さを知り、誰とでも協力して活動できる力が育つことを期待しています。2学期も元気いっぱい、楽しくいろいろなことにかかわっていきます。



命の温かさを実感中。
フワフワであったか〜い。



ヤギさんのお世話を頑張っています。
中庭や小屋の掃除も上手になりました。



ヤギさんの健康診断。
元気でよかったね。



かけはし遠足で、みんなともっと仲よしくなれました。



ジムリーナの体操教室で運動の楽しさを味わいました。



6年生ひかり学年

謙信公祭ボランティア・出陣行列
出陣行列参加者の思いを知ることが
できました。地域の祭りに参加し、盛
り上げました。

6年生は、「一人一人が責任をもち、下学年に優しく、リーダーとして自分から行動しよう」を学年目標として、毎日頑張っています。のびやか活動では、春日地域の歴史や魅力を地域の方々から詳しく学んだり、春日地域を盛り上げるために自分たちができることを考えて取り組んだりしてきました。今までの活動を紹介します。



林泉寺・座禅体験
謙信公の幼い頃に思
いはせ、座禅をし
ました。水の流れや鳥の
声を聞きながら、心を
落ち着かせていま
した。



春日山散策

講師の方から山城として、どんな歴史があるのかを実際に歩きながら、教えていただきました。

ふれあいコンサート出
演
合唱とダンスを元気に
発表しました。



謙信公祭金管発表
100回目という記
念の年。大ステー
ジで堂々と演奏しま
した。

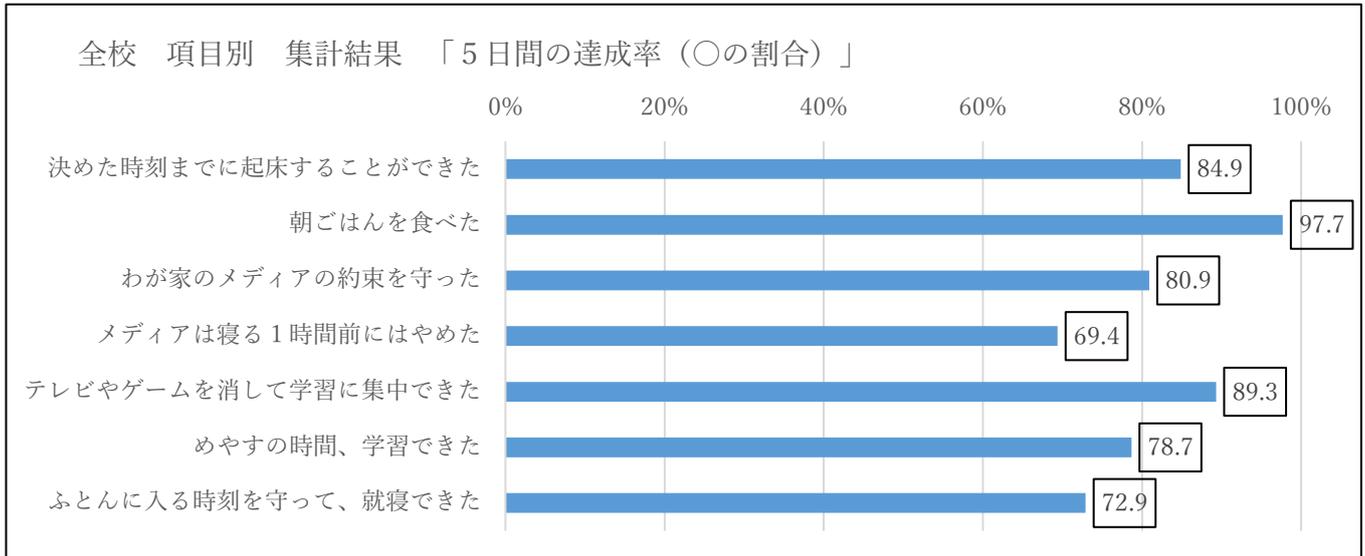


ソニャーレさんとのジェラ
ート共同開発
春日山・謙信公をイメージした
ジェラートを提案し、作って
いただきました。



春日ハッピーウィーク ～生活リズムを意識して、家庭学習に取り組もう～

春日中学校区では、健康的な生活習慣の確立に取り組んでいます。3校共通取組として2学期開始時期に強調週間を実施しています。春日小学校では9月1日(月)～9月5日(金)に、生活習慣・家庭学習習慣の確立ができるよう「春日ハッピーウィーク」を全校で実施しました。ご家庭でのご協力ありがとうございました。結果の一部を紹介します。



結果を見ると、多くの児童が基本的な生活リズムを整えて生活していることがわかります。特に「朝ごはんを食べた」(97.7%)や「決めた時刻までに起床できた」(84.9%)は高い割合を示しており、朝の支度や食生活のリズムが家庭の中で定着していることがうかがえます。また、「テレビやゲームを消して学習に集中できた」(89.3%)も高く、家庭での学習環境づくりに取り組んでいる様子が見られました。

一方で、「メディアは寝る1時間前にはやめた」(69.4%)や「ふとんに入る時刻を守って就寝できた」(72.9%)の数値はやや低く、**就寝前のメディア利用が課題となっています**。スマートフォンやタブレットの使用が日常化する中で、睡眠時間の確保が難しくなっている傾向も見られます。また、「めやすの時間、学習できた」(78.7%)という結果からは、家庭での学習習慣に個人差があることもうかがえます。特に高学年では「学習への集中」や「就寝時刻」が低下しており、学年が上がるにつれて生活リズムの乱れが生じやすくなる傾向が見られます。

今回の結果から、**朝のリズム(起床・朝食)はおおむね良好である一方、夜の過ごし方(メディアとのかかわり・就寝時刻)に課題があることがわかりました**。今後も、学校と家庭が協力しながら、規則正しい生活習慣の定着に向けた取組を進めていきたいと考えています。ご家庭でも、就寝前のメディア利用や就寝時刻について、改めて話し合う機会をもっていただければと思います。

